

人文社会学部 観光経営学科

教育方法と教育の特色ある工夫

本学の各学科・コースは、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー、以下 CP）に基づき、それぞれの特色を活かした教育方法による授業を行っています。さらに、資格取得科目の充実など、教育方法に工夫を重ねながら、教育内容の向上に取り組んでいます。

【教育方法】

即戦力となる社会人を目指して基礎的な知識の習得を行い、さらに覚えるだけでなく「自分で考える・体験する」ことに指導の重点をおき判断力・行動力の向上を目指しています。1・2年次では観光の概念、地理、文化、観光産業の概要について基礎的な理解をしてもらい、あわせて経営学・マーケティング論などの一般教養を集中して学んでもらいます。3年次では興味のある、または自己の進むべき分野を選択し、4年次でその分野についてさらに深く研究できるよう指導します。

【教育の特色ある工夫】

- ・ 「ホスピタリティ論」では、ビジネスに必要不可欠な心のこもったサービスすなわちホスピタリティの現状を旅行業界、ホテル業界、流通業界の事例から学ばせて、日常の社会生活の中でも人にやさしい行動ができるように指導しています。
- ・ 「航空ビジネス論」では、観光に果たす役割、ビジネス戦略、歴史について学ぶ。また、航空ビジネスの現場で活躍する方の特別講義や航空会社の空港施設・業務見学などを行うことで航空ビジネスの最前線を体験できます。
- ・ 「イベントプロデュース」では、プロ野球チームとタイアップし、試合の宣伝、グッズ販売、オーロラビジョン映像作成などの企画・運営に学生を参加させビジネスの実践を経験させています。
- ・ 「観光資源論」「地域振興と観光」では、学生が実際の地域を対象に観光地やテーマパークなど観光資源の調査を行い、地域資源を活用した観光企画を検討する実践型の授業を実施しています。その結果を基に、学生がグループで観光モデルコースや観光振興の提案を作成し、授業内で発表を行います。
- ・ 「観光経営Ⅰ」では魅力のある持続可能な観光産業の形成と求められる人材の育成を目指し、観光産業の経営課題や国・自治体が推進する観光政策を踏まえた重点施策の理解を深める授業を実施しています。
- ・ 「世界遺産Ⅰ」では、世界遺産検定3級レベルの基礎知識の習得を目指すと同時に、世界遺産の理解を深めるための旅を提案し、各自の問題意識を明らかにしています。これに続く「世界遺産Ⅱ」は、検定2級レベルの講義を実施しながら「考える」授業を展開して、世界遺産をめぐる多様な視点の獲得を目指している。講義の最後には「授業内・世界遺産委員会」を実施し、考えを伝え合う訓練も行っています。

- ・ 「観光産業体験演習」では、課題解決型学習(PBL; Project Based Learning)による学びとして、学生が、商店街やまちづくりに関わる専門家等と「現場」と「教室」で交流して、議論を重ねながらの未来につながる学生目線のアウトプットを「共創」し、地域に還元するまでの一連のプロセスを実践的に学びます。神戸・岡本を取り上げて、地域に学ぶための「フィールドワーク」、地域の人々から学ぶ「交流セミナー」などを実施し、国内外の観光地や商店街が抱える答えのない課題に向き合い、考え、構想する力を養います。